

伝統芸能を知らう。



高隈地区 かぎ引き祭り

今回、高隈地区のかぎ引き祭りを密着リポートしました。祭りについて高隈地区町内会・自治会連絡協議会会長である浜田保さんに解説していただきました。

く神木の切り出しなど準備が大変そうですが、

実は神木の選定を2週間前に行っています。また、運び出すことを考え、周囲の伐採なども済ませて祭り当日を迎えました。現在は、チェーンソーで切り、トラックで運び出すことができるので、楽になりましたが、以前はノコギリで切り、担いで中津神社まで運んでいました。

くかぎ引き祭りの本番以外の見どころを教えてください。見せ場の一つが鳥居から境内まで続く石段の坂です。鳥居をくぐるとかぎを下ろして

はいけないため、担ぎ手全員は呼吸を合わせ力を振り絞って駆け上がります。また、「サヨシドン」ともあります。「サヨシドン」とは、かぎを高く持ち上げ、地面に3度打ちつける儀式です。この儀式は、眠っている大地に春を告げる意味があります。

く観客も年々増え注目度が高まっています。

県内でも珍しい祭りであることが認知されてきたのだと思います。今年はテレビの取材で、早稲田大学名誉教授の吉村作治先生が訪れました。祭りの模様は3月20日（水）の14時30分からMBC南日本放送で放映されます。

く引き手の中に若者も多く見受けられました。

地元の若い人に限らず市役所の若手職員等も毎年参加してくれませんが、地元若手が

少なくなつたことを実感します。一自治会では対応できなくなりつつある現状では、今後の祭りのやり方も検討する必要があります。のではないかと考えています。そのうえで、この故郷高隈の地に300年以上続く祭りを地域一丸となつて存続させなくてはならないと感じています。

かぎ引き祭りを取材し、祭りがつくりだす地域のつながり、そして改めて伝統芸能が人を引き付ける奥深さを感じました。

今月号では、特集で市内の伝統芸能を紹介します。



14:00
かぎ引き本番
豊作を
いざ
勝負!!

かぎが掛かると同時に引き合いが始まります。総勢約300人近くでかぎを引き合い、闘争心むき出しで争う姿は圧巻。今年は、下高隈町が先勝した後、上高隈町が2連勝。万歳三唱するなど喜びを分かち合いました。



11:30
境内
担ぎ上げ
さあ！一気に
駆け上がれ!!

雄かぎと雌かぎの合流後、難関である境内への担ぎ上げ。大将の掛け声に合わせて、全力で駆け上がります。



早朝7時。事前に選んでおいたかぎにする神木を切り出します。全長約10m、重さ約1tの巨木を合流地点前まで運び出します。



大木を切り出し
決戦の地へ

7:00
神木の
切り出し



かぎ引き祭り

高隈地区に春を呼ぶ祭りと言われる「かぎ引き祭り」は、300年以上の歴史を持ち、市の無形民俗文化財に指定されています。毎年2月の第3日曜日、上高隈町と下高隈町に分かれ、以前は「喧嘩祭り」と呼ばれたほどの熱い戦いが現在も繰り広げられています。

祭り当日は、「雄かぎ」「雌かぎ」になる大木を早朝から切り出し中津神社前に運び出した後、重さ約1tの大木を神社の境内まで担ぎ上げます。

祭りでは、二またの雌かぎをかぎまたの雄かぎに絡ませ、渾身の力を込めて引き合います。勝負は3回行い、2勝したほうが勝利となり、勝てば豊作になると言われています。



昭和46年撮影。社殿は現在と異なりますが、祭りは変わっていないことが分かります。